



つづく つながる 夢を育てる学び舎
国立二小だより

令和8年(2026年)1月8日

国立市立国立第二小学校

校長 内田 辰彦

午年のスタート

校長 内田 辰彦

今年は「午年」です。午年は明るく活発で、思い立ったらすぐ行動するエネルギッシュな年になるそうです。午年と書いて「うまどし」と読みますが「午」という漢字はふだん「うま」とは読まずに「ご」と読むことが多い文字です。「午前」「正午」「午後」に使います。なぜ、「午」という文字を使うのかというと、昼間の12時は昔の時刻の言い方では「午の刻」(うまのこく)だからだということです。そこで12時を「正午」12時前を「午前」12時後を「午後」というようになったそうです。午＝馬のように、躍進していく年になることを期待します。

さて、年末の12月20日(土)には、延期していた学芸会保護者鑑賞日を無事に実施することができました。大勢の保護者の方々や来賓の方々にご来校いただき、子どもたちの劇を参観していただきました。子どもたちも保護者の方に見てもらえるという思いで演技していて、どの学年も最高の出来映えの劇を発表することができました。保護者の皆様には、衣装や道具を用意していただいたり、ご家庭での練習を見ていただいたり、延期に際して日程を調整していただいたりするなど、大変なご協力をいただきました。深く感謝いたします。

新年に際して、4月からの令和8年度に関することについて、予め保護者の方にお伝えすることがあります。

1つは、学級編成(クラス替え)についてです。二小では、これまで学級編成(クラス替え)は入学時、2年生から3年生になるとき、4年生から5年生になるときに行っていました。その学級編成(クラス替え)を毎年行うこととします。これは、回数が多くなることによって、同じ学年の中でより多くの子と同じクラスになる機会が増え、学年内での友達関係の深まりが期待できること。そして担任も変わることによって、より多くの教員がより多くの子どもと関わることになり、学校全体で児童理解を深めながらきめ細かな指導ができるようになること、などが期待できるようになるからです。

また、毎年学級編成(クラス替え)があっても、新校舎では学年スペースが設置されていて学年内で交流しやすいつくりになっていることや、算数の習熟度別学習ではこれまでも学年の枠の中でグループを編成していること、高学年では教科担任制を行っていること等もあり、毎年、学級編成(クラス替え)をしやすい環境になったと考えています。

もう1つは、新体育館棟の完成時期です。現在順調に工事が進んでいます。ちょうど1年後の、8年度の3学期から新体育館棟が使える見込みとなっています。2学期までは、今の体育館を使用し、12月に引越しをして3学期から新体育館を使用する見込みです。残り1年ほどになる思い出深い体育館を大切に使っていきたいと思います。また、その後の8年度の3学期には現在の体育館を撤去して、新校庭を整備する第3期工事の始まりとなります。その期間では、校庭の広さも今以上に制限される計画となっています。ただ、新体育館棟とその周辺の校地内も整備されるので、新たな校地を工夫しながら第3期期間の学校生活が安全に送れるように工夫していきます。

今年も子どもたちのよりよい教育環境の充実に向けて努めてまいります。引き続き本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。

